

**白山手取川流域 SDGs 認定制度**  
**SDGs 実践者・実践企業認定申請書**

申請者 基本情報	申請企業名（個人名）	工大 太郎
	代表者名（企業のみ）	
	担当者名（企業のみ）	
	担当者所属部署 （企業のみ）	
	住所	石川県白山市〇〇町〇〇丁目〇〇番地
	電話番号	XXX-XXXX-XXXX
	メールアドレス	aaaahakusankit@aa.com
SDGs 活動計画	SDGs に取り組む目的	自分の子ども達の世代が気候変動起因による災害等によって生命の危機にさらされる頻度が出来る限り少なくなるように貢献したい
	SDGs において重視しているゴール （最大3つ）	ゴール7、ゴール13、ゴール15
	SDGs に関して既に取り組んでいること	自宅に太陽光発電システムを設置し、薪ストーブも併用することで、再生可能エネルギーの積極的な活用、及び電力消費量の削減に取り組んでいる。また、地域の森林活動にも参加することで、間伐材の調達を自ら行いながら、CO2 削減に貢献している。
	SDGs 推進における貴社（個人）の強み	普段から小中学生向けの SDGs に関する授業のため、小中学校から呼ばれる機会が多いのが強みである。自分で取り組んだことを多くの若い世代の人たちに共有し、ワークショップ等を通じて子どもたちが具体的なアクション（例：森林活動を通じた間伐材を活用した椅子づくり等）に取り組むことを支援できる
	申請受理後1年間において実施予定の強みを生かした活動	現在、相談にのっている小学校3校に対して、全6回の森林活動ワークショップを提供する
	SDGs 推進における貴社（個人）の課題	自分が重視しているゴール以外に対する SDGs に関する課題を十分に理解できていない。
	申請受理後1年間において実施予定の課題を解消するための活動	日本として大きな課題となっているゴール5に関して書籍や講演会等により学びを深める。また、女性経営者や女性起業家とのネットワークを拡大し、彼女たちの活動を支援するための取り組みを考え、実行する。

白山 SDGs ア クシヨ ン プ ラ ン の 貢 献 計 画	白山 SDGs アクションプランにおいて貢献を宣言したいアクションプラン名	タンキューラボ
	貢献するために申請受理后、1年において実施予定の取り組み名とその概要	「白山における森のワークショップ」 白山の森林活動に参加し、森林資源を活用しつつ、保全を行うためのノウハウを、多くの人たちに広げていくためのワークショップを開催することで、森林資源の有効活用ができる人を増やす。
	取り組みを実施する際の具体的な対象地域名	鳥越地域
	取り組みを行う際のパートナー名	金沢工業大学（事前にパートナー団体と調整を行ってください）
	取組の成果を測るための成果指標	インプット指標＝ワークショップ開催回数 アウトプット指標＝ワークショップ参加者数 アウトカム指標＝参加者におけるワークショップ後の関連アクション実施者数
	申請受理后、1年で達成を予定している目標値	ワークショップ開催回数10回 ワークショップ参加者100名/年 参加者におけるワークショップ後の関連アクション実施者50名
	設定した指標・目標値と白山 SDGs アクションプランの目標値に対する関係	タンキューラボの2030年ゴールとして、ラボ在校生1000人、白山市内ラボ拠点100個が掲げられている。そのため、本活動においてラボ在校生100名、ラボ拠点1個を貢献できる。また、本活動を通じて、同様の活動を行う人が増えるよう促していくことで、ラボ拠点の増加に対しても貢献する。
その他、白山市におけるSDGs 未来都市計画の推進に貢献できること	SDGs 未来都市計画に関連して開催されるイベントへの積極的な参加と、参加者を増やすために本活動の参加者にも積極的に案内を行っていくことができる	